

安間川流域内水はん濫対策事業について

土木部河川課

1 現状と課題

安間川の流域では、戦後最大被害となった昭和 50 年 10 月の洪水(24 時間雨量 336 ミリ)において、596ha が浸水し、床上浸水 25 戸、床下浸水 756 戸の家屋被害など、3 億円を超える被害が発生した。その後も、ほぼ 2 年に 1 回の割合で浸水被害が発生する地域である。

この流域では大雨により川の水位が上昇し、排水路や用水路など周辺からの雨水が川に排水できなくなり、流域に水があふれる内水はん濫により浸水被害が発生している。河川改修や遊水地の整備だけでは低平地に降った雨水を河川へ流すことができないため、雨水を排水するポンプ施設整備や排水路の改良を行うなど、流域の排水対策を遊水地整備や河川改修などに併せて実施し、浸水被害の軽減を図る必要がある。

2 過去の主な浸水被害の状況

発生年月日	雨量 (mm/24h)	時間最大 (mm/h)	水害 原因	浸水面積 (ha)	被害戸数(戸)	
					床上	床下
昭和 50 年 10 月 7 日	336.0	81.5	内水	596	25	756
平成 10 年 9 月 23 日	185.0	72	内水	65	20	85

3 対策と効果

静岡県は、学識経験者、地域住民及び浜松市などの意見を基に、安間川の河川改修や遊水地整備を概ね 20 年間で実施することを定めた安間川河川整備計画を平成 16 年 4 月に策定した。

安間川は、周辺の地盤より河川の水位が高く、周辺に降った雨水を川へ流すことが困難となる河川である。このため浜松市は、静岡県が実施する河川改修や遊水地整備に併せて、内水はん濫対策としてポンプ場の整備や排水路の改修を実施する。

このように、静岡県と浜松市が連携して総合的な治水対策を行うことで、昭和 50 年 10 月と同規模の洪水に対して、床上浸水被害の解消を目標に整備を実施する。

4 事業内容

雨水ポンプ場整備、排水路整備

5 事業期間

平成 24 年度～平成 30 年度

【協議要旨】

- ◆ 各年度毎の整備については、県及び関連課と協議の上進める。

自転車走行空間等整備計画策定事業について

土木部道路課

1 事業の目的

- ・近年、自転車は健康志向の高まりやCO₂の排出削減など地球環境に優しく、機動性にも優れていることから、(市民意識の変化に伴い)生活の移動手段として再認識されております。
このため、「自転車走行空間等整備計画」の策定を進め、安全で快適な自転車走行空間のネットワークを構築するものです。
- ・自転車ネットワークのうち、主要交通結節点(JR浜松駅等)を中心とする都心部におけるルートについては、整備効果の早期発現が期待できることから、モデル箇所を選定して整備に取り組みます。
- ・都心部では、短時間利用目的のサイクルポート(路上駐輪場)等の整備を推進し、商店街駐輪スペース等との連携強化により、交流人口増加によるにぎわい創出につなげる取り組みを図ります。
- ・郊外部では、公共交通との相互利用(サイクル&ライド)の促進を図るため、自転車乗り入れに対応する駐輪場等の整備に取り組みます。

2 事業の内容

- ・計画策定区域 都市計画区域内
- ・計画策定期間 平成 23～24 年度
- ・モデル箇所整備 平成 24 年度
- ・整備工事 平成 25 年度～

【協議要旨】

- ◆ 自転車走行空間等整備を計画的に進める。